

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年3月24日(2011.3.24)

【公表番号】特表2010-521557(P2010-521557A)

【公表日】平成22年6月24日(2010.6.24)

【年通号数】公開・登録公報2010-025

【出願番号】特願2009-553724(P2009-553724)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/29 (2006.01)

C 0 8 K 5/14 (2006.01)

C 0 8 K 5/23 (2006.01)

C 0 8 K 5/101 (2006.01)

C 0 8 J 3/24 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 5/29

C 0 8 K 5/14

C 0 8 K 5/23

C 0 8 K 5/101

C 0 8 J 3/24 C E S

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月1日(2011.2.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

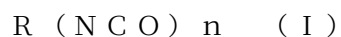
【補正方法】変更

【補正の内容】

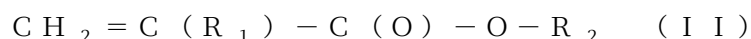
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリマー組成物であって、(i)ラジカル開始剤(free radical initiator)と、(ii)ラジカル架橋性ポリマー(free radical crosslinkable polymer)と、(iii)スコーチを抑制する量のイソシアナート、ジイソシアナート、および(メタ)アクリラートスコーチ抑制剤の少なくとも 1 つとを含み、イソシアナートおよびジイソシアナートは、式 (I) :



を有し、式中、n は少なくとも 1 であり、R は、4 ~ 26 個の炭素原子を有する、脂肪族、脂環式、脂肪族-脂環式、芳香族、もしくは脂肪族-芳香族炭化水素、または不活性に置換された炭化水素基であり、(メタ)アクリラートスコーチ抑制剤は、式 (II) :



を有し、式中、R₁ は、水素またはメチル基であり、R₂ は、1 ~ 10 個の炭素原子を有する、直鎖もしくは分枝鎖の炭化水素基、またはヒドロキシアルキル基、あるいは不活性に置換された炭化水素またはヒドロキシアルキル基である、ポリマー組成物。

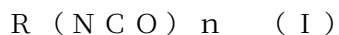
【請求項 2】

スコーチ抑制剤が、ポリマーの重量を基準にして少なくとも 0.01 重量%の量で存在する、請求項 1 に記載のポリマー組成物。

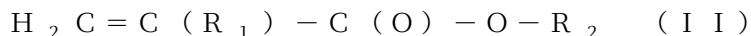
【請求項 3】

ラジカル開始剤(free radical initiator)を含むラジカル架橋性ポリマー組成物(free

radical crosslinkable polymer composition)のスコーチを抑制する方法であって、方法は、組成物をラジカル架橋条件(free-radical crosslinking conditions)に曝露する前に、スコーチを抑制する量のイソシアナート、ジイソシアナート、および(メタ)アクリラートスコーチ抑制剤の少なくとも1つと組成物とを混合するステップを含み、イソシアナートおよびジイソシアナートは、式(I)：



を有し、式中、nは少なくとも1であり、Rは、4～26個の炭素原子を有する、脂肪族、脂環式、脂肪族-脂環式、芳香族、もしくは脂肪族-芳香族炭化水素、または不活性に置換された炭化水素基であり、(メタ)アクリラートスコーチ抑制剤は、式(II)：



を有し、式中、R₁は、水素またはメチル基であり、R₂は、1～10個の炭素原子を有する、直鎖もしくは分枝鎖の炭化水素基、またはヒドロキシアルキル基、あるいは不活性に置換された炭化水素またはヒドロキシアルキル基である、方法。

【請求項4】

スコーチ抑制剤が、ポリマーの重量を基準にして0.15～7重量%の量で存在する、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

請求項1に記載のポリマー組成物を含む物品。